

第6回移動等円滑化評価会議四国分科会

- 日 時：令和6年8月8日（木）14：00～16：00
- 場 所：高松サンポート合同庁舎 低層棟2階 アイホール
- 開催方法：対面・オンライン併用

1. 開会

2. 開会挨拶 【四国運輸局 坂野交通政策部長】

3. 議題

① 四国における移動等円滑化の進展状況・基本構想の作成状況等について

※事務局より「資料2：四国における移動等円滑化の進展状況、基本構想の作成状況」に基づき説明。

② 事業者等、自治体、地方整備局、運輸局の主な取組について

※事業者より「資料3：事業者、自治体の取組」に基づき説明。

※四国地方整備局より「資料4-1：四国地方整備局におけるバリアフリーの取組」

「資料4-2：国土交通省における建築物バリアフリー化の取組み」に基づき説明。

※四国運輸局より「資料5：四国運輸局におけるバリアフリーの取組」に基づき説明。

【藤澤分科会長】

資料4-2につきまして、バリアフリー法に基づく条例の制定で平成27年以降途絶えているというご説明でしたが、例えば徳島県でしたら「徳島県ひとにやさしいまちづくり条例」とかですね。ユニバーサルデザイン県民会議があったりするわけですが、このバリアフリー法に基づく条例を制定する動きが途絶えてしまった、要因はご存じでしょうか。

【四国地方整備局 建政部】

申し訳ございません、途絶えてしまっている背景までは存じ上げておりません。

【NPO法人福祉住環境ネットワークこうち 笹岡委員】

資料4-2の車椅子使用者用便房の設置数に係る基準の見直しにつきまして、障がい者の便房の数を増やすということでしたが、このことは非常にありがたいことですが、これは車椅子の方と介助する人が入れるようなスペースと車椅子対応の洋式便器があるというのが基本となるのでしょうか。なかなか細な設備まで規定を設けるのは難しいと思いますが、高知県のバリアフリー観光相談窓口の方にも高知県で西方面、東方面に観光したいけどオストメイト設備のあるトイレはどこですかとか、ユニバーサルシートや大人用のおむつ交換台のあるトイレはどこですかなどといった問い合わせがあります。障がい者の方はそういった設備がないとそれよりも先に行くことを諦めないといけなくなります。ま

た、設備の数が少ないため私たちも対応するたびに毎回悩ましい思いをしております。

今回の見直しにおいて設備についてオストメイトやユニバーサルシート、ベビーシート等の設備を備えたトイレを最低限いくつ用意しなければいけないというふうになっているのか。もしくは条例等で別途そういった設備の設置義務を設けなければいけないのか教えてください。

【四国地方整備局 建政部】

イメージとしましては資料4-2の11ページをご覧ください。こちらには便房の広さとかガイドラインに基づいて、トイレの設置をしてくださいということになっております。便房内の設備について具体的にこういったものを設置してくださいということまで決まっているかは即答できませんが、11ページに記載されている車椅子利用者用便房の例をイメージしていただければと思います。面積要件などもあったかとは思いますが、こちらの例をご参考いただければと思います。

③ ハード・ソフト取組計画の作成状況等について

※事務局より「資料7：ハード・ソフト取組計画について」に基づき説明。

④ 意見交換

<資料6 意見・要望等の内容及び回答・方針>

※意見交換に先立ち、事務局より「資料6：意見・要望等の内容及び回答・方針」に基づき、事前意見・回答について報告した後、意見交換を実施。（内容は下記のとおり。）

【公益財団法人 香川県視覚障害者福祉協会 浅見委員】

今回事前に質問させていただいた点について、回答いただきありがとうございます。その件につきまして2点ほど再確認させていただきます。

まず1点目はホームの安全性につきまして、無人駅等に関しまして様々質問させていただきましたが、特に取り組みいただきたいことを書かせていただきました。具体的に申しますと、コロナ前にこちらの会議で、その時担当であったJR四国のお客様担当の方とお話させていただきましたが、私は約30年間、盲導犬と三豊市の本山駅という無人駅を利用しております。この駅は島式ホームで左右に内方線付きではない点状ブロックがあり、駅は階段ではなくスロープで上がってきて乗車する形となっている。この駅は基本的には利用者が少ないので点状ブロックをゆっくり確認しながらホーム左右（1番乗り場又は2番乗り場）どちらかで電車を待つというように利用しているのですが、お盆や学生の試験時期になるとホームが混み合い、盲導犬の誘導でホームに上がるのですが、人を避けながら移動すると自分がホームの左右（1番乗り場又は2番乗り場）どちらにいるのかがわからなくなり非常に危険を感じたことがあります。

このことは、当時もお話させていただき、担当者に現地を確認してもらい当センターでもお話させていただきました。ホームの真ん中に点状ブロックを設置するとか、以前、切符を確認していたスペースが中央にあり、そこに点状ブロックを設置するなどの対策を検討い

ただ、最近などは大変な猛暑などで足元がふらつくこともあるため、大変危険な思いをすることもあり、再度ご検討いただきたいとの思いで事前質問書に記載させていただきました。昨年度12月に当協会とJR四国さんと多度津駅についての勉強会を開催させていただき、様々な意見をさせていただきましたが、その際も設置には多額の費用を要するため直ちに対応することは難しいとの回答でした。いただいた回答で現状難しいことは理解いたしましたが、今後ともこのようなニーズがあるということ把握いただき継続してご検討いただきたいと思っております。

2点目はワンマン電車についてです。ワンマン電車に乗るとランプが点いたところのドアが利用できますという自動アナウンスが流れますが、左右がわからないのです。これも12月にお話しさせていただいたときに、右、左をアナウンスに入れてしまうと電車の上り、下りが変わったときに困るので入れられないそうですが、全てのドアが利用できますと言われても右の全てのドアなのか、左の全てのドアなのかこちらではわかりません。バリアフリー法の中でも案内放送について、わかりやすくするように検討するとなっておりますので検討いただきたいです。これからもワンマン電車は減ることはなく、無人駅と同じように、確実に増えていくと思っておりますので、障がいのある方も安全に利用することができる施策について予算の関係などもあるかと思っておりますが、このようなニーズがあるということ認識していただき、今後も継続して取り組みいただければと思っております。

【四国旅客鉄道株式会社】

香川県視覚障害者福祉協会様とは12月の時点で多度津駅と琴平駅の方で意見交換会を開催させていただきました。その時と回答が同じになってしまうのですが、可能な限りご意見を反映できるように取り組んではおりますが、その時、申し上げましたとおり、経費の問題や、ワンマンについても列車の編成、設備等を早々に変えることは困難であり、列車を改造するときに検討していくという形をとっておりますので、すぐに改善というのは難しい状況であります。

もちろんご意見は参考にして、今後、設備投資や車両改造をするときには間違いなく課題として提議していきます。継続して検討はしてまいります。必ずできると確約することはなかなか難しい状況です。

【公益財団法人 香川県視覚障害者福祉協会 浅見委員】

12月の際にもお話したかもしれませんが、経費が掛からない方法の一つが駅員による補助があると思っております。無人駅はなかなか難しいとは思いますが、有人駅でワンマン電車が来た時には、ホームからでも右ですよ、左ですよと声を掛けるとか。あるいはワンマン電車の車内案内の録音について、例えば乗客の方に周囲に障害のある方がいらっしゃるようであれば右のドア、左のドアどちらが開くのかをお伝えしてくださいといった周りの方のサポートを促すような社内放送を流すなど、現在流れている車内放送の内容を変更するのではなく、付け足すことは可能かを検討してください。

また、以前の担当の方ともお話したかもしれませんが、ソフト面でのことで、社内教育

を受けて、できる方もいればできない方もいます。また、順々に駅の職員が変わっていき声を掛けてくれる方、くれない方、また、声を掛けてくれる内容も少し違ってきます。慣れもあると思いますが、そういったことについても社内教育、研修等で再度お話していただくことで違ってくると思います。費用の掛からない取り組みも検討いただければと感じました。

【NPO法人福祉住環境ネットワークこうち 笹岡委員】

いつも地元で取り組んでもなかなか解決できなくて、皆様にご相談させていただくことも多いんですけど、たまには前向きに進んでいることの報告をさせていただければと思っています。資料5にもありましたように2月末に高知県で意見交換会という形で四国運輸局の方にお世話になって開催していただいたんですけど、その場でもご報告させていただきましたが、4月からの合理的配慮の義務化というところで、昨年から各所に改善に取り組んでくださいと周知活動を行ってきました。以前より観光客の方からお叱りを受けていた、高知での中での周遊観光バスが車椅子の方が乗れない、対応ができないという状況が長く続いていたところ、なんとか改善をとということで取り組んでいただきました。昨年の秋から高知県の観光コンベンション協会さんのホームページ高知旅ネットというサイトの中に、車椅子のご利用のお客様ということで、こういう条件、こういう状況であれば、乗っていただけますというような案内を公開していたり、対応が可能になったということや、これまで観光地でよく皆さんが利用される場所でありましたが、車椅子での乗降が無理だったところも新たに対応していただけるようになったということがありました。そして、2月の意見交換会の場でも報告しておりましたが、高知空港からの空港連絡バスで車椅子対応ができない、という回答がずっと続いていたところ、合理的配慮が義務化になったので、なんとか前向きに車両を低床にする以外の別の方法でもいいから考えてほしいと伝えていたところ、やはり県外から車椅子ユーザーの方が高知に来られてちょっと問題になりまして、「対応がないとはどういうことだ」と言われました。その時は路線車両の低床車両を回してきてくださって、臨時的に対応してくれましたが、これからは車両が対応しないから乗れません、というのはダメだということで、なんらか方法を考えて、路線バスを回してくるなり、小型の車椅子対応の車両を使って対応していくというふうな方向に、やっと一歩、動きはじめたという状況にあります。また、高知城でも、車椅子の方が高知城の上まで上がりたいという声も定期的にあります。それもできるだけ対応していこうということで、県の方でも予算を組んでくださり、今年度、天守までは無理ですが、本丸まで車椅子で上がれるルート of 路面整備と門のところにスロープを設置して本丸までいけるように整備をするという方向に話が進んでいるので、少しずつですが、合理的配慮の義務化で動き始めたなというのを感じています。また、県の観光政策課おもてなし室の方でもアドバイザー派遣事業というのを今年度から始めました。私たちが観光関係施設等にお伺いして各障害の理解であったり、接客対応の仕方であったり、また、法律や制度の改正についてもご説明に伺って、それがきっかけでハード・ソフト両面の改善につながるというようなことも取り組みを続けていますので、また少しずつ前向きな動きも出てきているということを報告させて

いただきました。

【藤澤分科会長】

2月28日に高知で意見交換させていただきまして、周遊観光バスの取り組みとか、コード化点字ブロックなどもご紹介いただきました。それと印象に残っているのは、高知駅の改修を当事者の方が、設計段階当初から参画されて、作っていかれたということを知っており、すごい取り組みをされているということに関心させられました。ハード整備の取り組みというのは、終わってから当事者の方が見ても、これは問題がある、あれは問題だということで、整備後に問題が出る人が多いですが、事前に設計段階から入っていかれたということを知っておりますので、非常に理想的な取り組みをされていると感じました。

【全国脊髄損傷者連合会 香川県支部 田村委員】

色々なものがスマホの普及により検索できるようになったんですけど、それを探すまでにすごく時間がかかる。うまくキーワードがヒットしないと見つけにくいっていうものがたくさんあるんだなと改めてこれを見て思いました。こういったこれからスマホっていうものは切っても切れない、なくなるものになってくるので。こういったアプリができましたというのを、例えば、こういった会議の場で四国の中で新しいアプリができましたよっていうのをできれば紹介していただいたら、各団体さんの代表の方が来られているので、それをまた紹介して皆さん使ってみましょうねっていう話もできるんじゃないかなと思うんです。使ったうえで何がこう使いづらいとかいい点も出してもらって、改善につなげていけたらいいと思うので、できればそういった情報をこの会議の場で教えていただけたらなと思います。あと例えば障がい者とか、ユニバーサルデザインとかバリアフリーとかっていうので、そこから紐づいてアプリに行くような形をとっていただけたら、それぞれの不自由な人たちの情報っていうものが検索しやすいんじゃないかなと思うので、ここは多分、行政の方でしていただいた方がいいのかなと思います。それが繋がってくると他の県に行った時でも他の県の情報っていうものも拾えるんじゃないかなと思うので、是非はお願いできたらと思います。

【藤澤分科会長】

ちょっと私からお話しさせていただくと、徳島のバリアフリーの県民会議がありますよね。主導しているのは徳島県で、様々な団体が加わったグループを組んでいます。そこでそういうユニバーサルデザインの色々な機器などの紹介をされていて、そのホームページでも紹介されている。この会議で紹介するとのと合わせてそういう組織やホームページなどを作っていく必要があるのかなと、そういう形でまとめていくような取り組みが必要じゃないかな、と思っているところなんです。各県にそれを運営していくとなると大変ですけども、先ほど紹介しましたように、条例化しているのが徳島県だけなんですね。やはり徳島がそれなりに先駆けて、ユニバーサルデザイン県民会議を作ったり、それに条例に基づいてしているわけですから、その関係で整備できたらいいのかなという感じがしております。

先ほど表彰の時に丸岡さんが言われたように、バリアフリーからユニバーサルデザインにという話をされていたり、広く取り組んでいくという意味では、例えば、今回はいろいろな交通関係のものでしょうか、いろいろなソフトにしる、ハードにしる、生活に関わるようなことを上手に紹介するシステムを作っていく必要があるのかなと感じています。

踏切内の誘導ブロックの件でご質問されているので、去年は2つでしたよね。11号線のことでの踏切が2か所ありますね。そこに線路内の誘導ブロックがありましたけれども、今は4つに増えているということですね。

【CIL 星空 井谷委員】

たくさんご質問させていただいて、たくさん答えていただいて、ありがとうございます。今日、もう一つ質問したいことが出てきて、うちの車椅子のスタッフでトイレでベッドが必要な人がいるんですね。一緒に行動していると、ベッドがあるかないかって、本当に中を見てみないと分からなくて、トイレ難民みたいになることが多くて。車椅子用トイレありますよとか、多目的トイレはありますよって、教えてもらって行くんですけど、結構使えないって言うところが多くて。そういうことを今後、駅や公共の建物は優先して、先ほどの報告にもちょっとあったんですけど、まんのう公園の中の表示のように、トイレ内の図面などをホームページとかで表示してくれるようにしてもらえたらすごくいいのかなと思いました。将来的には町のバリアフリートイレマップみたいなのができて、クリックすればこういう設備になっていますとか、オストメイトが付いていますとか、表示されたらいいのかなと思います。とりあえずの取り組みとして、公共の建物や駅などでホームページにそういうのが載っていたらいいなというのがあります。

【藤澤分科会長】

以前、私が徳島大学にいた時に車椅子ユーザーの方に講演いただいたんですよ。皆さん出かける時にどこにトイレがあって、どこで休めるか。ということをはっきりわからないと出掛けられないということをおられたんですね。だから我々がパッと出掛けられるように、手軽に出掛けられるわけではないということを感じました。さらに言われているように、事前にその情報をつかめるかどうかというのは、死活問題になっているわけですね。だからそのあたりは皆さん、重要視して、ホームページに提示したり、触地図を入りに提示したりといった対策の必要があるかなと思っております。

【NPO法人福祉住環境ネットワークこうち 笹岡委員】

紹介には載っていないんですけど、高知県のバリアフリー観光相談窓口でチラシに高知県内の観光宿泊交通機関を調査した高知のバリアフリー観光というサイトに約260施設の情報も載っているんですけど、トイレの情報も全部調べて写真入りで載せているのと、検索で車椅子の方が情報を探しているというふうに検索してもらってどこの施設のトイレにユニバーサルシートがある、トイレがあるかっていう情報も出てきます。トイレ情報が本当に重要なので、それだけでページを作りたいんですが、高知県も急にページを増やす予算がないということで、皆さんはひょっとして活用されているかわかりませんが、皆

さんが書き込めるフリーのアプリで、Check a Toilet というアプリがあります。実はバリアフリー観光ウェブサイトの下にもバナーを貼っているんですが、私たちの窓口でも各県内の各トイレを調べて撮ってきた情報を全部 Check a Toilet に入力していますので、高知でちょっとそういうトイレ、どこかな、と思ったら写真入りで載っているところも多いです。皆さんも、もしそれぞれで行かれて、このトイレ使いやすいと思ったら写真を撮ってどなたでも入力が可能ですので、情報がどんどん集まってくると、みんなで作っていけて情報を共有していけるかなと思います。

【藤澤分科会長】

今そういう形のフリーでどんどん情報を入れて構築していくというのはありますよね。私自身はトイレの写真をいっぱい持っていますので、それアップします。

【CIL 星空 井谷委員】

愛媛でも「お出かけイーヨ」っていうサイトがあって、それは僕たちも一緒に協力して、いろいろ建物とか、駅とか、ホテルとか、軒並み回って、うちのスタッフとかカフェ巡りとかして、そういう情報も載せたりもしているんですけど、やっぱり書き込めるっていうのは、すごいいい案だなと思ったんで、持ち帰って考えてみます。

四国運輸局の方に質問ですけど、バリアフリー教室を行われていると思うんですけど、この分科会が始まった時ぐらいに、愛媛でもどっかの学校でできたらいいですね。みたいな話がありました。僕たちも愛媛県内でいろんなところの社協と協力して、松山市内だと、小中学校も半分ぐらい福祉体験学習で回っていたりとか。最近は愛媛県内のいろんなところでお願いされていくようになっているんです。愛媛バス協会さんとわをんさんでたくさん活動されていると思うんですけど、バリアフリー教室で愛媛がないなと思って、わをんさんたちは結構やられていて、学校とかで対象はないんですかね。

【NPO 法人わをん 門田委員】

学校も20年ぐらいやっています。小中学校でやっています。実施するときはお声掛けさせていただきます。

【CIL 星空 井谷委員】

うちもバリアフリー教室とかではないんですけど、障害理解のための活動で回っているのでコラボできたらいいですね。最初に言われていたのが、直接の伝手がなかったりするんで、僕たちが回っているのであれば、一緒にどうですかって言ってもらったことがあって、そのルートがあるから活かしていけたらいいなと思ったんで、ぜひ協力をしていただきたいなと思います。

【事務局】

今年は愛媛県西条市の小学校で1件やる予定となっております。なかなか愛媛県で実施できておらず、我々のアピール不足であると自覚しておりますが、今後ともご協力いただ

ければ幸いです。

【C I L 星空 井谷委員】

これは希望というかお願いみたいな感じになるんですけど、これから無人駅も増えていく中で、乗務員の方が降りてきてくださって渡し板を設置していただいて、ホームと車両の段差を解消していただくっていう取り組みについてです。もともと伊予鉄道さんは行われていて、僕たちの方でも調査して、この国交省の移動等円滑化評価会議が行われた時に、ぜひやってほしいっていうのをお願いしていて、鳴門線で取り組みが始まったっていうのを聞いていて、僕の中では車掌さんはあんまり降りてこれないみたいなルールがあるのかなと思っていたんですね。それぐらいやっぱり、伊予鉄道さんがスムーズにやっていたので、僕たちは違和感がなく当たり前前の光景だったんですけど、そういえばそうだなと。県外に行ったら全然そういうのはないなって、スロープをホームに置いていたら盗られちゃうとか、治安がいい愛媛だからできるのかなと思ったりもしていたんですけど、そこはチェーンを付けるとか対策はあると思います、ぜひ皆さん、鉄道会社さんとかで1度検討してもらって。できない場合は、こういう理由で難しいと教えていただけたら、ちょっと一緒に考えさせてもらえたら嬉しいです。無人駅はない方がいいですけど、増えていくのは仕方ないっていうところで、一緒に考えさせてもらえたらありがたいなと思っております。

【四国旅客鉄道株式会社】

乗務員スロープについては、運転士が一人で乗務するワンマン列車が予讃線では多く走っていますが、基本的に運転士が運転席から離れるっていうことは非常にリスクがあります。鳴門線ではワンマン列車でも対象としてやっているんですけども、乗務員が案内できるのはあくまで列車からホームまでとなってしまいます。ホームの外へは列車から遠く離れてしまうことになりますので、ご案内が難しく、乗務員ができるのはそこまでということになります。鳴門線はホームから駅の外へは全部スロープが設置されていまして、対照的にできるんですけども、予讃線はホームからその駅の外へスロープが設置されていない箇所が多々あります。あと島式ホームだったり、列車の停止位置によって、介助ができないような場所がありまして、今すぐ全部でやろうというのは難しいのかなというところです。以上が理由の一つです。

あと乗務員介助をするようにしますと、列車からの乗降により乗務員室を施錠したり、準備をするのに10分ぐらいかかります。スロープを持ってきて設置して、ホームへ下ろしたり、載せたり、あと乗務員室に他の人が入らないように鎖錠して、作業しますので、そういうのも含めてやったりしますと約7分から10分かかってしまいます。当然、予讃線の場合、単線ですので、そこで10分列車を遅らせてしまうと特急列車や他の列車にその遅れが影響し、多くのお客様に遅れが発生してしまうリスクもあります。今予讃線の方ではやれてはいるんですけども、課題としては当然認識として持っておりますので、今後、どこまで拡大できるかは分かりませんが、それも検討していきたいなというところではございます。

【C I L 星空 井谷委員】

ありがとうございます。知識として大変参考になります。伊予鉄さんがスロープを置いてくださるのは、パッと出てきて、ホームにスロープを置いて、またホームに戻って戻っていかれるのは1人でなく、運転士さんと車掌さんの2人いらっしゃるから、パッとできるってことなんでしょうか。

【四国旅客鉄道株式会社】

伊予鉄道さんの場合は車掌さんと運転士さんの2人で乗務しておりますので、そのあたりで、運転手は運転席が離れるということはあまりないと考えられます。その点、JR 四国の場合はワンマン列車で運転手一人が乗務していて、時間がかかってしまうところはあるかなと思います。ただ鉄道会社ごとにやり方が違いますので、そういうことは考えられるかなというところです。

【公益財団法人 香川県視覚障害者福祉協会 浅見委員】

この会議とはまったく関係のない話ですが、最後に各関係者の皆さんに知っておいていただきたいことがございます。来月の9月4日、5日の両日ですね、香川県のレグザムホールを会場にして、全国視覚障害者女性研修大会が香川県では50年ぶりの開催ということで、全国から300人ほどの関係者が香川県へ来られます。レグザムホールで会議をして、夜はクレメントホテルで懇親会、翌日、またレグザムホールで式典ということで、この周囲のホテルで全国の方々が宿泊されると思います。盲導犬も7頭ほどやってくると、香川県からも私のパートナー以外も参加するかと思います。この周囲の飲食店等には補助犬の入店は可のステッカーをお願いしたりということで、回っておりますけれども、せっかく香川に来られてですね、他県の方が不快な思いをして帰られると香川県にとっても非常に恥ずかしいことです。そういったことがないように、各関係者の皆さんもまた四国運輸局の皆さんも、もし何かありましたら9月4日、5日に視覚障害者女性の大きなイベントがあるということを皆さんに周知していただきたい。また、ボランティアも配置して誘導などについてはスムーズに行く予定にしておりますけれども、何かあってはいけないうということもあります。今、非常に私の頭の中では、そのことで一色になっているんですけれども、ぜひそういったことがこの香川で来月開催されるということのをぜひ皆さんの方をお願いしておきたい、どうかご協力よろしく願いいたします。

【事務局】

先ほど周知をお願いということで、全国視覚障害者女性研修大会でございますが、4月末に香川県視覚障害者福祉センター様から周知の依頼を四国運輸局に対して文書にて承っております。それに関しまして、観光施設、公共交通機関を監督する部署へ四国運輸局の観光部、自動車交通部、鉄道部、海事振興部に向けて、各部から各事業者に対して不適切なことがないように指導するようということで、交通政策部より通知しております。

【事務局】

本日は貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。本日の報告や意見交

換については、概要をとりまとめた上で、運輸局のホームページにおいて議事概要を公表させていただく予定です。また9月に予定されている第12回目の本省評価会議にも本分科会の概要を報告することとなりますが、概要作成にあたっては事前に皆様にご確認をいただきますので、よろしくお願いいたします。

講評

【藤澤分科会長】

ご挨拶いただきました坂野部長様から、当分科会はこの取り組みの状況、報告とか情報交換の場ということですが、特に私自身は意見交換が行える貴重な場であると思っています。意見交換と言いますか、先ほども愛媛と高知で情報交換されており、非常によかったのかなというふうに思っている次第です。毎年、このように取り組みをやっており、全国もいろんな地区でやっておられますけども、やはり四国というのは非常にコンパクトで、いろいろ情報交換できる機会を作っているということでもありますし、また、意見交換会をさせていただいたりして、各県とも地域ごとの県ごとの特色もございます。こういう全国と比較するというのも非常に重要ですけども、独自の取り組みを事業者さんと当事者さんと一緒になって考えていくということが、今後とも必要ではないかなと思っています。で前回の高知の意見交通会の時も委員の方から一緒にこう考えているんだよとか、高知駅の話もそうですし、いろんな取り組みについても、当事者と事業者さんといった、全てのステークホルダーと言いますか、いろんな意見の人たちが集まって議論をしていくというファシリテーションという手法を使って、まさにワークショップでやっておられましたね。グループワークという取り組みを紹介されていたと思うんですけども、そういう取り組みを個々に場面ごとに設けていかないといけないのかなあと、こういう大きな場で発揮するようにですね。それを情報交換しながら個々に落とし込むような、取り組みが今後とも必要ではないかなと、思っているところがございます。今後ともよろしくお願いいたしますと思っています。

4. 閉会挨拶 【四国地方整備局 倉本環境調整官】

5. 閉会